

三井のリフォーーム 住生活研究所 所長 西田 恭子

日本青年館のコンサートに想う

先日、以前にリフォーームをさせていただいたお客様から、上條恒彦氏のコンサートチケットを頂いた。

一九七一年にグループ六文銭と共演した「出発の歌」や、木枯らし紋次郎主題歌「だれかが風の中で」などでご存じの方も多いと思うが、世界歌謡祭の歌唱クランプリを受賞したほどの実力派だ。年齢不詳の声量感だったが、七四歳だと聞いて驚いた。

会場は、オリンピック開催と絡んで取り壊しが決まっている日本青年館の大ホールだ。上條氏は三五年前のこの青年館のオープニングで歌い、それ以降も「望郷の歌」を全国の青年たちと歌い継いできた。神宮の森と共に威風堂々とそびえているこの建物も三五年が経った。私が日頃いる新宿三井ビルは、今年築四〇年を迎えた。だが新宿高層ビル街の名だたるビルの一角にあり、ビルの南側にある「55ひろば」は昼休みの憩いの場で、またロビー階ではランチタイムコンサートを楽しめる建物であることと思うと、三五年での取り壊しは「なんともったいな

い」という思いがした。

だが、今回のコンサートは小雨が降り、入口に行くには傘をさして急な勾配の階段を上がらなければならず、二階席なのでさらに階段が待っていた。席も椅子幅、奥行きともに狭く、私の隣の男性は、脚を縮め、腕をまっすぐ前に伸ばした姿勢で、びくとも動かなかった。バリアフリー化など時代性にあった改修がなければ、建物の長寿命化は望めないと改めて感じた。

そんな現在の二代目日本青年館は取り壊され、三代目青年館が場所を変え誕生する予定だという。日本の青少年の育成と交流に尽力してきた日本青年館への惜別と、次への期待を込めてのコンサート開催で、青森や福島から貸切バスで来た人たちなど、全国津々浦々から集まっていた。日本だけでなく海外の青年団との交流も行われてきたので、会場はお国ことばと外国語が飛び交っていた。

驚くことに、私が中国でお世話になった方も会場にいた。このチケットをくださった方のご紹介の人なのだが、北京だけでなく西安

まで足を伸ばし、観光名所以外の中国の姿を見聞出来たのは彼のおかげだった。昨今の日中関係の影響からか彼も少し疲れている感じはしたが、国際交流は止まることなく続いている事を改めて感じた。

交流をリフォーームの仕事で考えてみると、施主様の生活をお聞きして理解したうえで設計し、ライフスタイルを提案するのであるが、逆に生活とは何かを施主様に学ばせていただく場でもある。長きにわたっているような方々から刺激を受け、考えるきっかけを頂いたことを感謝している。

リフォーームの建築士は大きな建造物を完成させる喜びも、建築家として名をなすこともないが、当社で一五〇名以上の建築士がリフォーームに携わっているのは、施主との関わりに、達成感と明日への期待感があるからではないだろうか。

今回のコンサートは最後に会場一体となり「PEACE IN HARMONY」を歌い上げた。とても良いハーモニーで、上條ファン世代はコーラスが本当に上手だと感心して帰路についた。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーーム」で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。日本建築家協会正会員。」